

## H19 知床半島基部における輪採制エゾシカ狩猟の実施状況について

(聞き取り調査に基づく中間報告)

北海道環境科学研究センター 車田利夫

	斜里町	羅臼町
調査日	平成 20 年 1 月 31 日	平成 20 年 2 月 1 日
聞き取り対象者	猟友会斜里支部斜里分会、斜里町環境保全課	猟友会中標津支部羅臼部会、羅臼町環境管理課、知床財団
今年の猟模様	非常に雪が少なく、芳しくない	同左
輪採制の効果 (感覚的)	再解禁後 2 日間程度は捕獲効率上昇するが、その後急に下がる。	再解禁後の初日は捕獲効率上昇するが、その後急に下がる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ C 地区は地形的に猟場が限られ、流し猟ができる主な地域はオペケプ林道とオシンコシン旧道の先の 2 箇所。しかし、後者は入林規制などもあり実質的にはほぼ禁猟区状態。</li> <li>・ D 地区は入林規制が多く、実質的猟場はかなり少ない。</li> <li>・ D 地区には農地（秋蒔小麦）があり、食害の発生する積雪前の時期に禁猟期間を設定するのは被害対策上問題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特に積雪後は猟場が限られるが、さらに 2 分されたため狭すぎた。</li> <li>・ A 地区は林道がないため巻き狩り主体。B 地区は短い林道がほとんどで、最も長い林道はシカ捕獲禁止区域を通過するため猟が制限。この状況では主に流し猟での捕獲効率上昇という輪採制の効果は得られにくい。</li> <li>・ B 地区の広範囲では積雪に伴いシカが移動していなくなるが、シカ捕獲禁止区域付近は好適な越冬地でありシカが集結する。この地域で捕獲できなければシカは減らない。</li> <li>・ 入林規制範囲が広く、シカ猟への影響が非常に大きい。</li> </ul>
狩猟者の行動の変化	輪採制によって狩猟努力が低下することはなかった。	